

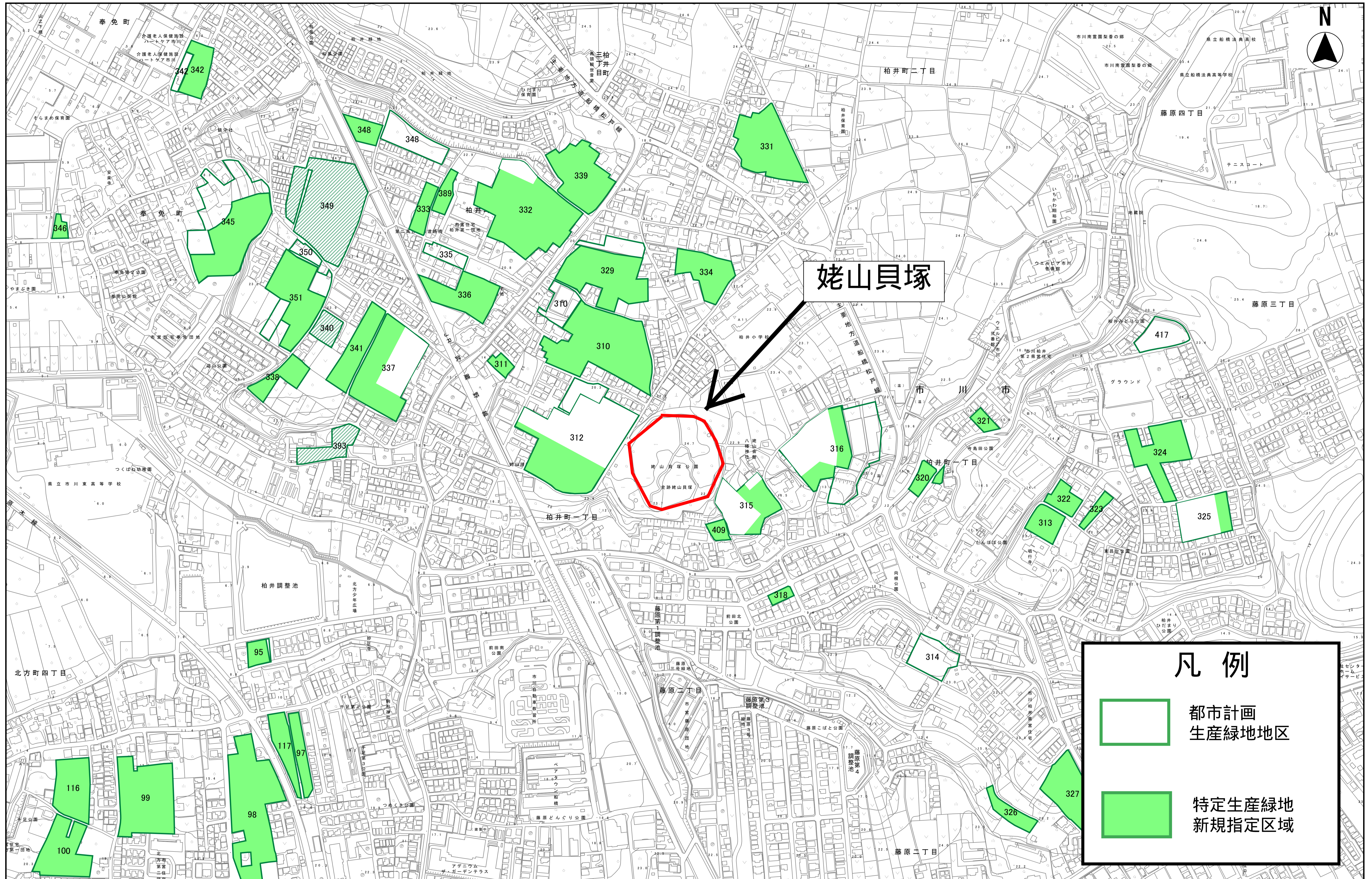
報告事項第1号

生産緑地地区と「埋蔵文化財包蔵地」との

関係について（報告）

令和4年8月2日（火）

参考：令和3年度第4回都市計画審議会 使用資料



文化財保護法の制限

文化財保護法では、地下にある住居跡などの遺跡を「埋蔵文化財」と規定し、これらが広がる範囲（周知の埋蔵文化財包蔵地）を土木工事などで掘り返す際には、着工の60日前までの発掘の届出を義務付けています。

届出を受け、市教育委員会は当該区域の遺跡の有無について調査を行います（確認調査）。遺跡の存在が確認された際は届出者と遺跡の現状保存のための協議を行います。やむを得ず遺跡の保存ができない場合は、遺跡を測量し写真を撮影する等の記録保存を行います（本調査）。なお、記録保存に係る費用は届出者等の負担となります（個人住宅建築における本調査費用は公費負担）

市内の埋蔵文化財の分布

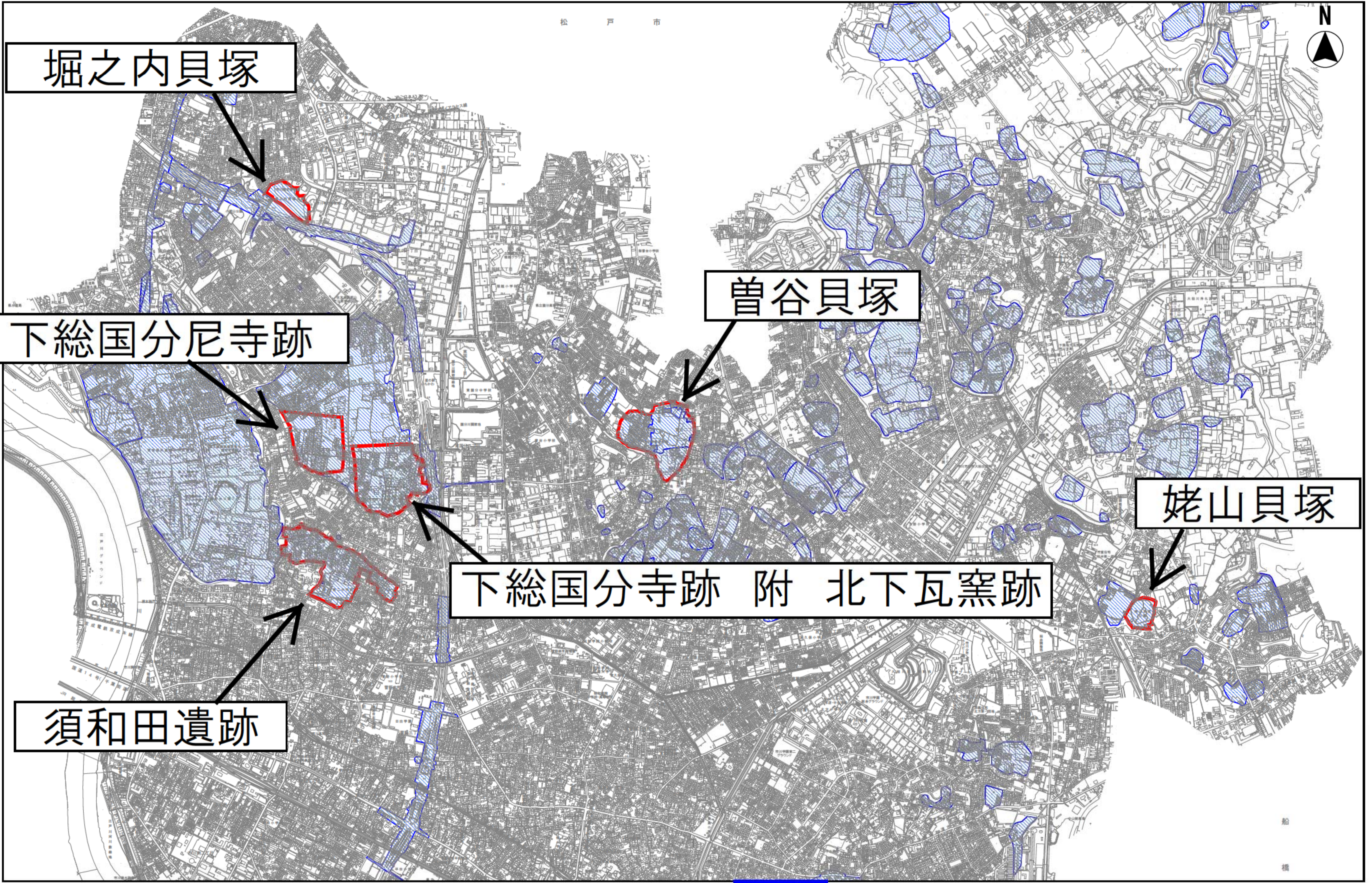
市川市の歴史は古く、地下には多くの竪穴住居跡などが残されています。特に市川北部の台地上には古くは縄文時代の遺跡から多く見られます。

史跡と公有化

遺跡の中でも特に重要な地域を史跡に指定しています。市内には100を超える多くの遺跡がありますが、その中で史跡に指定されている区域は9か所（須和田遺跡の指定区域は市と県に分かれているため、史跡数としては10件）であり、更に特に重要とされる国指定史跡は5か所となります。

国指定史跡は、公有化に係る費用の80%の国庫補助金を受けることができ、優先的に公有化を進める区域となります。

市内の主な史跡及び周知の埋蔵文化財包蔵地

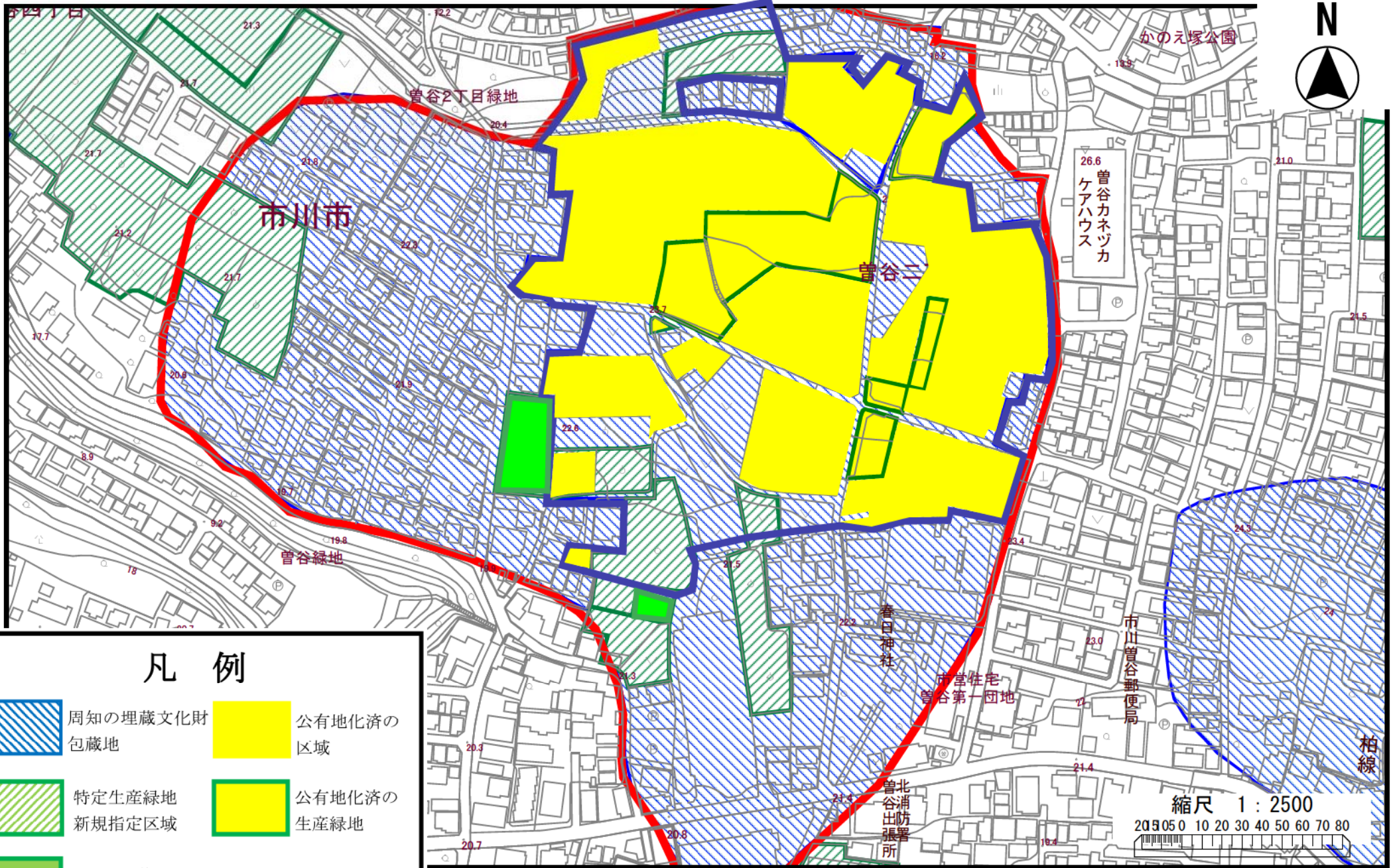


史跡及び史跡を含む周知の埋蔵文化財包蔵地






周知の埋蔵文化財包蔵地

縮尺 1:10000
2000000 100200300400500600700800

曾谷貝塚



凡例

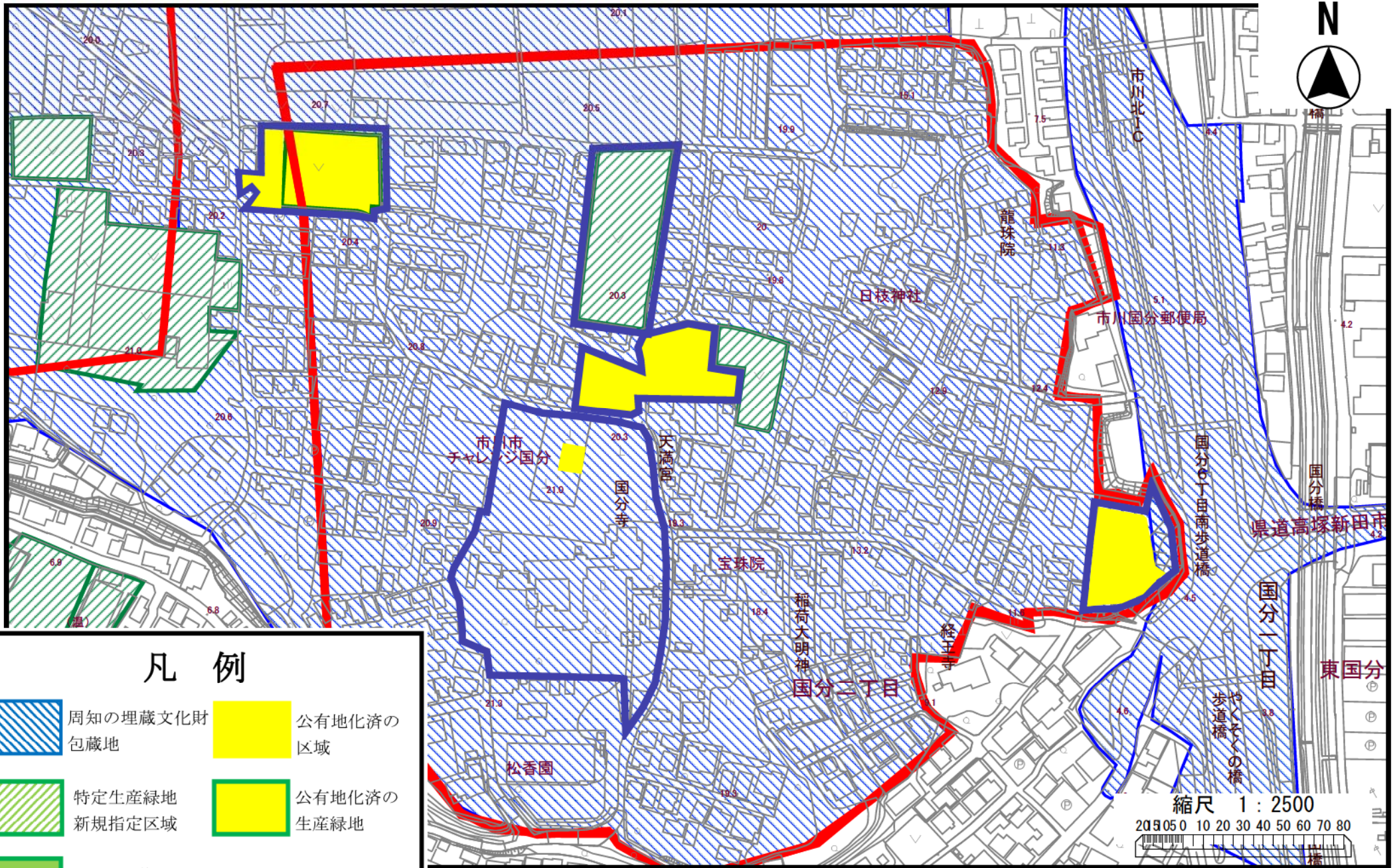
- | | | | |
|--|---------------------|---|----------------|
|  | 周知の埋蔵文化財包蔵地 |  | 公有地化済の区域 |
|  | 特定生産緑地
新規指定区域 |  | 公有地化済の
生産緑地 |
|  | H4より後に
指定された生産緑地 | | |

— 曾谷貝塚の周知の埋蔵文化財包蔵地






— 史跡指定範囲



縮尺 1 : 2500
20 30 40 50 60 70 80

下総国分寺跡

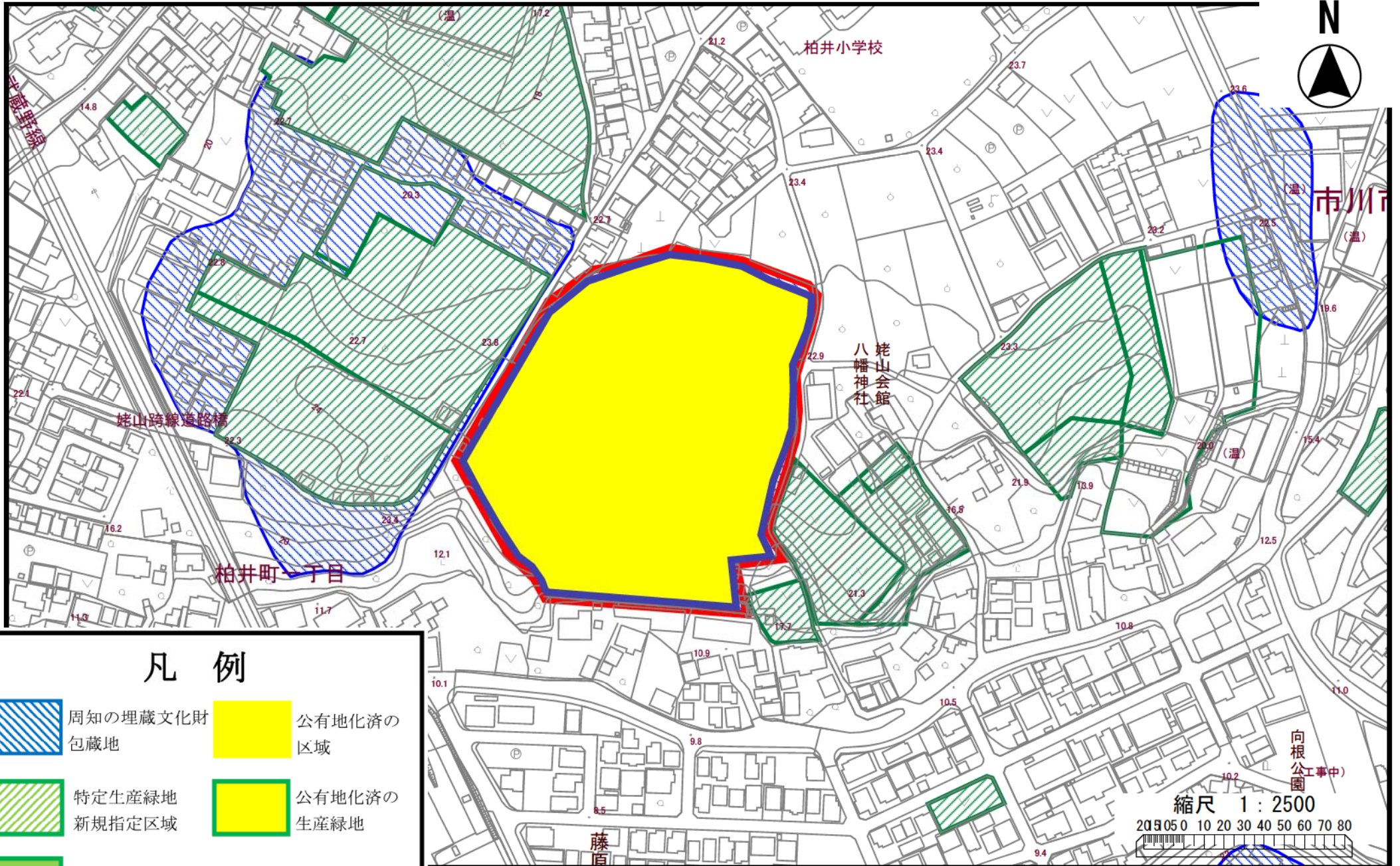


凡例






- | | | | |
|--|---------------------|---|----------------|
|  | 周知の埋蔵文化財包蔵地 |  | 公有地化済の区域 |
|  | 特定生産緑地
新規指定区域 |  | 公有地化済の
生産緑地 |
|  | H4より後に
指定された生産緑地 | | |

 下総国分寺跡の周知の埋蔵文化財包蔵地
  史跡指定範囲

姥山貝塚



凡例

- | | | | |
|--|---------------------|---|----------------|
|  | 周知の埋蔵文化財包蔵地 |  | 公有地化済の区域 |
|  | 特定生産緑地
新規指定区域 |  | 公有地化済の
生産緑地 |
|  | H4より後に
指定された生産緑地 | | |

姥山貝塚の周知の埋蔵文化財包蔵地

史跡指定範囲

買取申出フロー図

